

令和元年度の財務書類を公表します

新地方公会計制度に基づく統一的な基準で作成

市の財政状況を市民の皆さんにより詳しくお知らせするため、総務省が示した「統一的な基準」に基づく財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）を公表します。

これは、一般会計や特別会計、市が一定割合以上を出資している関係法人などを対象とした連結財務書類です。

財政課
995-1801

貸借対照表

市がどれほどの資産を所有し、債務を負っているかのバランスを明らかにしています。市の資産と、その資産をどのような財源(負債や純資産)で賄ってきたかが分かります。

資産の部（これまで積み上げてきた資産）				負債の部（これからの世代が負担する金額）			
	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)		普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
1. 固定資産	797	1,039	2,023	1. 固定負債	201	356	693
・有形固定資産	759	975	1,899	・地方債	172	233	454
・無形固定資産	1	15	29	・退職手当引当金	28	33	64
・投資その他の資産	37	49	95	・その他	1	90	175
2. 流動資産	50	81	158	2. 流動負債	25	30	59
・現金預金	7	35	69	・一年以内償還予定地方債	21	26	50
・未収金	1	2	4	・賞与などの引当金	2	3	6
・基金	43	43	84	・その他	1	2	3
・棚卸資産	0	0	1				
資産合計	848	1,120	2,181	負債合計	226	386	753
	(858)	(1,127)	(2,179)		(224)	(389)	(753)
				純資産の部（これまでの世代が負担した金額）			
				純資産合計	622	733	1,428
					(634)	(738)	(1,426)
				負債および純資産の合計	848	1,120	2,181
					(858)	(1,127)	(2,179)

- 市民1人あたり/令和2年3月31日時点の市の人口（51,347人）で算出
- 端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。
- 固定資産台帳などの詳細は市公式ウェブサイトに掲載しています。
- （ ）内の数字は前年度決算の値です。

裾野市の連結範囲

連結グループ

市全体

一般会計

一般会計
土地取得特別会計
墓地事業特別会計

国民健康保険特別会計
後期高齢者医療事業特別会計
介護保険特別会計
十里木高原簡易水道特別会計
水道事業会計
下水道事業会計

裾野市土地開発公社
静岡県芦湖水利組合
裾野市長泉町衛生施設組合
富士山南東消防組合
裾野市振興公社
駿豆学園管理組合
静岡県後期高齢者医療連合
静岡県地方税滞納整理機構
静岡縣市町総合事務組合
三島市外五ヶ市町箱根山組合
三島市外三ヶ市町箱根山林組合
駿東地区交通災害共済組合

行政コスト計算書

企業会計では損益計算書と言われているものです。市の行政サービスの提供にどれだけの費用（コスト）がかかったか分析を行うことを目的としています。

経常費用 (A)			
	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
1. 業務費用	102	132	257
・人件費	30	39	75
・物件費	69	88	170
・その他	3	6	12
2. 移転費用	79	177	344
・補助金など	28	88	172
・社会保障給付	33	84	163
・他会計への繰出金	13	-	-
・その他	5	5	10
合計	182 (178)	309 (306)	602 (592)
経常収益 (B)			
	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
1. 使用料・手数料	2	12	23
2. その他	5	7	14
合計	7 (11)	19 (24)	37 (46)
純経常行政コスト(A-B)			
	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
	175 (166)	290 (282)	564 (546)

純資産変動計算書

市の純資産（資産から負債を差し引いた額）が、令和元年度中にどのように増減したのかを明らかにします。

	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
前年度末純資産残高	634	738	1,436
純行政コスト	△175	△290	△564
財源	164	286	557
・税収等	124	181	352
・国県等補助金	40	105	205
当年度差額	△11	△4	△7
当年度純資産変動額	△12	△4	△8
期末純資産残高	622 (634)	733 (738)	1,428 (1,426)

資金収支計算書

キャッシュフローといわれるもので「キャッシュ＝お金」の「フロー＝流れ」を表しています。市の収支をその性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分して表示し、市がどの活動に資金を必要としているかを知ることができます。

	普通 (億円)	連結 (億円)	市民1人当たり (千円)
1. 業務活動収支	9	21	42
・業務支出	156	274	534
・業務収入	165	296	576
2. 投資活動収支	△12	△24	△47
・投資活動支出	35	49	96
・投資活動収入	23	25	49
3. 財務活動収支	2	1	1
・財務活動支出	21	26	50
・財務活動収入	23	26	51
当年度資金収支額	△1	△2	△4
前年度末資金残高	7	37	72
当年度末資金残高	6	35	68

業務活動収支／経常的な行政活動の収支で、投資・財務的支出には含まれないもの

支出▶人件費、物件費、補助金、社会保険料など

収入▶税収、使用料手数料など

投資活動収支／公共資産の整備にかかる収支

支出▶公共施設などの整備費、基金積立金など

収入▶基金取崩収入、貸付金元金回収収入など

財務活動収支／地方債の元利償還、発行額の収支など

期末純資産残高／当該年度末の純資産の額。期末純資産残高から期首残高（前年度末純資産残高）を差し引いた額が当該年度の増減額になる。

純行政コスト／経常行政コストの総額から受益者負担金などの経常収益を差し引いた額。行政コスト計算書で算定される。